

平成30年度第3回狭山市社会福祉審議会会議録

- 開催日時 平成30年11月22日(木)
午後1時30分から午後2時27分まで
- 開催場所 市役所 603・604会議室
- 出席者 13名
田辺会長、宮本副会長、田淵委員、小川委員、坂本委員、寶積委員、
宮島委員、三角委員、井村委員、堀委員、矢吹委員、細井委員、
渡井委員
- 欠席者 2名
山口委員、藤吉委員
- 事務局 10名
齋藤福祉こども部長、
三ツ木長寿健康部長、
宮崎福祉こども部次長(福祉政策課長兼務)、
宮岡長寿健康部次長(長寿安心課長兼務)、
田中福祉政策課担当課長、淵泉障害者福祉課長、志村長寿安心課介護保
険担当課長、岩切長寿安心課相談支援担当主査、遠山福祉政策課総務・
政策担当主幹、堀越福祉政策課総務・政策担当主査、
- 傍聴者 なし

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 狭山市心身障害者医療費支給制度改正の概要について (会議資料1)
障害者福祉課長から説明

<質疑応答>

- 会 長 所得制限の対象となるのは何人か。
- 所管課長 約120人である。ただし、現在制度を利用している方は、平成34
年9月まで引き続き制度を利用できる。
- 副 会 長 心身障害者は市外の医療機関を利用する割合が高いと思われるが、今
後医療費の窓口無料化を市外の医療機関に拡大する予定はあるか。
- 所管課長 半年程度は市内医療機関の窓口無料化の様子を見て、運用に問題がな
ければ、市外の医療機関に説明・お願いに上がる予定である。

(2) 狭山台地域包括支援センターの運営法人の変更と事業所の移転について
(会議資料2)

長寿安心課介護保険担当課長から説明

<質疑応答>

- 委員 狭山台地域包括支援センターの所在地は西武狭山台ハイツの一室になるのか。通りから見て地域包括支援センターとわかるようになっているのか。また、駐車場はあるのか。
- 所管課長 西武狭山台ハイツの1階空店舗を利用し、看板やのぼり旗を設置している。
- 会長 駐車場は建物の前にあるのか。
- 所管課長 建物の裏に1台分確保している。
- 委員 前委託法人が受託できなくなった理由は何か。
- 所管課長 人員の確保が難しくなったと思われる。
- 会長 地域包括支援センターの職員の就職・退職が頻繁だった時期があったようだが、最近はどうか。
- 所管課長 最近は以前ほど頻繁ではなくなっている。

(3) その他

①狭山市ひとり歩き高齢者安心シールの交付について (当日配付資料)

長寿安心課相談支援担当主査から説明

<質疑応答>

- 会長 12月1日開始ということによいか。
- 所管主査 12月1日であるが、曜日の関係で実質は12月3日からとなる。
- 委員 この事業に関して狭山市は先駆的であるのか。全国での普及率はどうか。また、発達障害児も認知症の方と同じように徘徊することがあるが、発達障害児にも活用しているか。資料に費用が実費と書いてあるがいくらか。
- 所管主査 全国でも始まったばかりの事業であり、埼玉県では日高市を始めとして鶴ヶ島市やその他いくつかの市町村で行っている。現在は発達障害児には活用しておらず高齢者のみとなっている。発達障害児については今後の検討課題としていきたい。費用は1セット(30枚)あたり3,590円である。
- 所管部長 初回は費用無料となっている。初回の配付枚数で足り、追加で購入する必要はないと考えている。
- 会長 この事業を運用していくにはシールの周知がかなり必要である。

- 所管部長 資料2枚目にシールの見本があるのでご覧頂きたい。
- 所管主査 シールの大きさは横2.5センチ、縦1.5センチである。
- 所管部長 資料4ページ目にシールを貼りつけた写真がある。
- 委 員 シールをジャンパーに貼って、そのジャンパーを脱いでしまうと意味がなくなってしまうのではないかと。
- 所管主査 冬場はよく着るジャンパーなどに貼っていただく。普段よく着る衣類に貼っていただきたい。
- 所管部長 1回につき1人30枚配付するので、色々なものに貼ることができる。また、衣類に貼った場合には200回以上洗濯に耐えられると言われてるので、1回貼れば相当期間利用できる。
- 委 員 実際に運用が始まっている市町村もあるようだが、シールを貼った高齢者の反応はどうか。スムーズにQRコードを読み取ることができるのか。認知症の方がいきなりスマートフォンを向けられて写真を撮られるような行為をされては不信感を抱くと思う。
- 所管主査 このシールを貼っている方は認知症の方だと判ってもらい、QRコードを読み取らなくても警察に連絡したりすることが重要だと考えている。実際に運用が始まっている市町村の実績は確認できていない。
- 会 長 対応の仕方によっては、認知症の方が余計に口を閉ざしてしまうこともある。対応の仕方がとても重要になってくる。
- 委 員 この事業が全国的に普及していくことを願う。また、先駆的に発達障害児にも活用していただきたい。発達障害児は名札を付けていることが多いが、個人情報の事を考えると今回のシールは素晴らしいと思う。
- 副会長 このシールを貼っている人が徘徊していたらQRコードを読み取るということを市民は知らない。この事業を広く広報し、市民に認知してもらえるようにしていかなければならない。そうやって初めてこの仕組みが生きてくると思う。

(3) その他

②第13回全国校区・小地域サミットINさやまの開催について

(当日配付資料)

福祉政策課担当課長から説明

<質疑応答>

- 会 長 数年前からこのサミットに狭山市の地域福祉活動者有志で参加している。他の地域の事例を聞くことで自分達の活動のきっかけとなり、介護保険生活支援体制整備第2層の二つのグループが文京区の「こまじいの家」を視察した。視察したグループの一つが一軒家を借りてみんなが集まれる拠点をオープンした。活動が順調な地域はみんな楽しんで活動

して、福祉のグループや自治会とうまくいっている。自治会との連携はとても重要である。

4 閉会

〈終了〉